

新時代への改革



東京・小平市、住宅街の一角に宮沢工業はある。

先代は、自動車系列企業として金属プレス加工を中心に現在の宮沢工業の基盤をつくりあげた。宮澤和弘(39)は、父から継いだ会社をプレス加工業から自社ブランドを持つメーカーへと変えた。

先代からは、「好きなようにやれ」と言われていた。そんな宮澤は学生時代から商才を発揮していた。アルバイトで入ったレストラン「レッドロブスター」で店長を任された宮澤は大学在籍中すでに月給40万円を稼ぎ、その後正社員となりアルバイト教育担当としてレッドロブスターの店舗拡大時に、20店舗以上の立ち上げに携わった。そこでの経験が、現在の宮沢工業の人づくりの基本となっている。

父親の病気を機にレッドロブスターを退職し、家業に戻った宮澤がはじめたのが、プレス加工業から板金加工業への転換である。レーザー加工機1台、ベンダー1台、溶接機1台からスタートし、親企業の言いなりにならざるをえない自動車業界に依存するのではなく自立した企業への変革を目指した。

改革には10年の歳月がかかった。ようやく、改革が終わったと思った時、父親が亡くなった。さらに主要客先の売上が急速に落ち込み、11億の売上が7億になった。この時ばかりは倒産を覚悟した。もう、駄目だ、と思った瞬間も何度かあった。しかし、人前ではそんな苦労はいっさい見せなかった。「やるしかない。社長とはそういうものだ」と心に決めて前に進んだ。銀行や取引先との交渉、社内体制の改革、新規取引先の開拓を次々と行い、宮澤はこの危機を乗り切った。

新製品の開発も行った。工場用粉塵集塵機、コンクリート基礎工事用型枠、二重床構造OAフロアー、土砂崩れ防止用コンクリートアンカーなどがその代表例である。

そして今、ようやく危機を乗り越え、売上也新しい客先を中心に戻った。さらに、販売会社を立ち上げ、こちらも絶好調である。

エヌシーネットワークには創業時から参加。ここ2年だけでも東芝、日立、ブリヂストン、日清食品(乾麺の乾燥ライン)などと取引を開始した。

レッドロブスター時代に培った教育指導力のもと、31歳の工場長が現場を仕切る。

常に前進を続ける宮澤和弘の目には日本製造業新時代の息吹きを感じさせる力がみなぎっている。

(エヌシーネットワーク 内原康雄)

挑戦する人

challenger

みやざわかずひろ

宮澤和弘さん

宮沢工業 株式会社 / 代表取締役

会社概要

宮沢工業 株式会社
所在地: 〒187-0004
東京都小平市天神町 1-266
TEL: 042-342-2570
FAX: 042-342-2144

担当者: 代表取締役 / 宮澤和弘

事業内容: 各種金型設計製作、自動車用品設計製作、
土木、建築、各種精密板金加工など

エミダス会社・工場詳細情報:

<http://www.nc-net.or.jp/emidas/gaiyou.php?1375>

※「エミダス工場検索」のキーワード検索「宮沢工業」で検索できます。